

小橋昭彦からの提言

こうすれば
もっと良くなる！



さらに充実

強みを伸ばせ！

82位
792

手厚い学校給食



小橋の提言 → 農業連携で給食費無償化

学校給食予算は一人当たり約1万円で、全国でも82位と手厚いです。給食で提供される米と味噌は100%地元産。有機栽培による米飯の日も今年度は20日ほどに増える予定です。丹波市の給食は農業が支えています。農業振興予算を投じることで、給食費の無償化を目指しましょう。将来的な経済負担の軽減が見通せることは少子化対策として欠かせません。給食費はその第一歩です。

63位
792

小中学校が身近



小橋の提言 → 地域力を活かして不登校対策

15歳未満人口に対する小学校数は63位、中学校数は262位。学校と地域で運営協議会を持つコミュニティ・スクールもほぼ全校で導入済みです。一方で、不登校の子供は小学校で1.5%、中学校で6.5%と増加傾向。教育支援センター「レインボー」を核に、地域力・民間力の活用を進め、誰ひとり取り残さないよう、学びの場の多様化を実現しなくてはなりません。（令和6年6月議会提案）

71位
792

図書館が充実



小橋の提言 → 考える力をつける拠点に

一人当たり図書予算は71位、蔵書数は5.8冊で109位。市内に6館ある公立図書館数は他市にない魅力です。学校図書室との連携など取り組み面の強化を図ることで、図書館ネットワークを活かした学び力を伸ばす環境づくりを進めましょう。たとえば子どもの頃から英語に親しみ国際感覚を磨くことも、園や学校、図書館が連携することで可能です。（令和4年9月議会提案）

全国

792

市と比べた丹波市の強み弱み

魅力UP！

弱みを改善

780位
792

公園が少ない



小橋の提言 → 北近畿一の子育て公園整備

一人当たりの都市公園面積は全国780位とほぼ最下位です。小学校ごとに裏山があるのが理想ですし、公園の遊具も充実したい。スケボーやボルダリング等の若者向け施設もほしいですね。屋内で遊べる遊戯施設もニーズがあります。近隣では舞鶴や宮津、西脇等にしかなく、整備が実現すれば、近隣から子育て世代が遊びに来る拠点になります。（令和3年12月議会提案）

714位
792

独自の子ども施策がない



小橋の提言 → 市民提案で光る事業を創出

国の財源をあてにしない丹波市独自の児童福祉費は、714位と極めて少ない状況です。令和5年度の丹波市の子育て支援施策は全部で91事業あり、児童福祉費全体で見れば249位と見劣りはしません。そこで、予算に子どもや保護者からの要望によって実現する「提案枠」を設け、市民提案によるオリジナルな子育て支援事業を創出しましょう。

458位
792

若者が戻らない



小橋の提言 → AIを活かして活躍支援

大学や短大卒の人口比は458位。AI等の学び直しを進め、高度人材の雇用や起業を増やさなくてはなりません。また丹波市では、学生時代を挟む10年間で若者の4人に1人が市外に出ます。その後帰るのは男性で35%、女性ではわずか5%。丹波市役所でさえ女性管理職比率が12%。若者や女性が活躍できる社会に、市役所からスタートする改革が必要です。（令和4年6月議会提案）

バラマキ型から未来を見据えた環境整備型に予算をシフトし、
ここで育てたい！ここで暮らしたい！
と実感できる子育て日本一の丹波市を実現しましょう。

子育てと会社経営を融合してきた小橋のあゆみ

1965 丹波市春日町に生まれる

1987 広告制作会社（コピーライター）

1995,96 宣伝会議賞受賞

2000 データセクション(株)設立 代表取締役

1999 インターネット系広告会社 取締役

1998 メール情報誌『今日の雑学+(プラス)』創刊

2020 丹波市議会 副議長

2016 丹波市議会 議員

1980

1990

2000

2010

2020



1987 大阪外国語大学（現大阪大学外国語学部）卒業

1983 柏原高等学校卒業

1998 第1子誕生 在宅勤務開始



2001 田舎で子育てがしたくて丹波市にUターン

2002 第2子誕生

2003 第3子誕生

2006 地域づくり総務大臣表彰受賞

2009 大路地区認定こども園運営委員会 委員長

2010 中山自治会こども会 会長

2013 大路小学校PTA 会長

やさしく楽しい未来へ。

【発行】小橋昭彦後援会

〒669-4265 丹波市春日町中山 1150

本人携帯：080-3869-1771 <https://kobashi.ne.jp/>



小橋昭彦後援会

お申し込み →

フォームはこちら

